

## ハナノキの新産地

著者	大原 準之助
著者別表示	Ohara Junnosuke
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	34
号	1
ページ	10-10
発行年	1986-06-15
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00056115">http://doi.org/10.24517/00056115</a>

無刺で細く、葉は披針形～長楕円状披針形で長さ5～6cm、側脈は主脈から70°～80°の角度で開出し、葉柄は *indica* group と異り長さ3～5mmで長い点を異にしている。外観的にはリュウキュウアリドウシに似ているが小枝、葉柄には短い粗毛があり、葉質はうすい点で区別できる。

2. リュウキュウジュズネノキ (新称) 本種は一見オオバジュズネノキ (*D. indicus* var. *macrophyllus* MAK.) に似ているが葉は楕円形～菱形状楕円形でやや小さく(長さ4～6cm、幅2～3cm)、基部は鋭脚または楔脚となるので区別できる。

3. *D. indicus* var. *intermedius* MATSUMURA は1909年に発表されたアリドウシの一型であるが一般の学者には余り知られていなかった。本変種の記載で引用されたのは宮城鉄夫(沖縄産)、田代安定(沖縄島, 1987年3月)、田代安定(沖縄島, 1987年4月)、田代安定(奄美大島, 1987年9月)の4個で、原記載は *Folia oblonga vel ovata, maxima 5 cm longa, 3 cm. lata, spinis petiolo multo longioribus. Flores 12～15 mm longis.* (葉は長楕円形～卵形、最大のものは長さ5cm、幅3cmに達し、刺は葉柄よりはるかに長く、花は長さ12～15mm) となっている。typeの指定がないが私は田代安定(沖縄, 1987年4月)を *lectotype* と指定したい。本変種はトカラ

列島の口之島以南沖縄島まで分布し、概形はコパノニセジュズネノキ (*D. indicus* var. *parvifolius* KOIDZ.) に一番近いが葉質が薄く、乾くと褐色となるので直に区別できる。ビシンジュズネノキ (*D. indicus* var. *minutispinis* KOIDZ.) はtypeを見ると本変種と区別できない。従って和名としてはビシンジュズネノキを用いたい。本変種の刺は変化が多く長さ1cm以上のものから無刺のものまでである。一般に刺は温暖多湿の所では発達が悪く沖縄ではアリドウシやコパノアリドウシの無刺のものも見られる。

4. リュウキュウアリドウシ (*D. biflorus* MA-SAM.). オキナワジュズネノキ (*Tetraplasia lutchuensis* KOIDZ.) は坂口總一郎氏が沖縄島の源河山で採られたものに基いて記載されたものであるが、typeを検したところリュウキュウアリドウシの狭葉品でリュウキュウアリドウシの変化範囲に入ることが判った。従ってこれをリュウキュウアリドウシの異名とする。

(付記) アリドウシの仲間は葉の大きさ、刺の長短に変化が多く分類のつかないグループである。アカネ科の植物のうちには葉の大きさの変化が著しいものがあり、サツマイナモリやクチナシなどその例である。従ってアリドウシも種を大きく見た方がよいと思う。

(Received Mar. 4, 1985)

○ ハナノキの新産地(大原準之助) Junnosuke ŌHARA: New Locality of *Acer pycnanthum* K. KOCH. 1984年4月22日、愛知県西加茂郡小原村大ヶ蔵連の山林中で、たゞ1株であるが新たにハナノキの大樹を見出した。樹高16m、根囲3.2m、根元から3又する主幹の胸高囲は、それぞれ97, 88, 85cmに達する雄株で、樹令300年以上と推定される。

周辺は標高約550～600mの自然林で、南にゆるやかに開いた谷間である。尾根筋はヒメコマツ群落、斜面はクレーコナラ群落に被われ、ハナノキが自生する標高585m附近の小流の流域はハンノキ群落である。本産地は愛知県第二の自生地であるばかりか、ハナノキの分布の西南限として注目される。(註: 本稿は昭和60年1月12日受理したもので、故大原準之助氏の遺稿となるものである。)

○ 村田 源監修 京都の野草図鑑 京都新聞社(〒604 京都市中京区烏丸通夷川上ル), 昭和60年9月24日発行。B6版, 328頁, 2,500円。

本書は京都府下の山野で、身近にみられる草本及び草本様低木を、内藤登喜夫氏が撮影した写真と永井かな氏の手による線画(一部は梅林正芳氏)とを合わせて編集したもので、その解説文は永井かな氏(一部は村田源氏)が当り、その数は82科, 594種を数える。

○ 浜田善利監修 熊本の野草〈上〉春～夏編 熊本日日新聞社(〒860 熊本市上通町2-33), 昭和61年4月5日発行。B6版, 308頁, 2,800円。

本書は春から夏にかけて、平地・山地・海岸を飾る野草をカラー写真346枚を使用し、288種について解説している。本年6月には下巻の夏～秋編が発行される予定とのことであるが、上下巻で600種ばかりが掲載されることとなる。美しいカラー写真に、開花期・生育地・形態・名称・応用・近似種などの項目にしたがい、適切な説明が記されている。

(里見信生)